5万分の1地質図幅の新刊

姉　　崎
ANESAKI

5万分の1地質図幅　地域地質研究報告

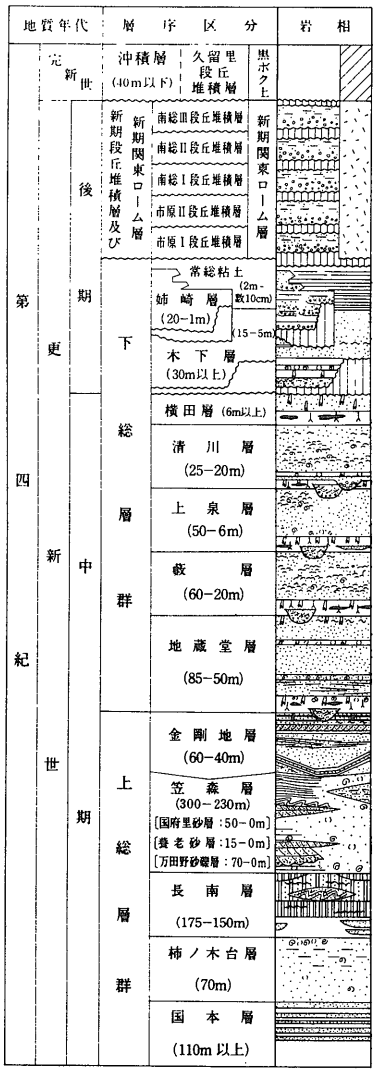
著　　者　徳橋秀一・遠藤秀典
発　　行　工業技術院　地質調査所
取 扱 先　東京地学協会　(03)261-0809　262-1401
　　そのほか全国主要書店
販売価格　3,420円

“あねがさき”か“あねさき”か　国鉄内房線の駅名が“姉ケ崎”となっているために　対外的には前者の呼び方が知られているようであるが　本来の地名は姉崎で後者の呼び方が正しいとのことである．　市原市役所に登録されている地名及び国土地理院5万分の1地形図の呼び方も姉崎（あねさき）となっている．

地形・地理　本地域の南東側には上総丘陵が　北西側には下総台地が発達する．　下総台地は　蛇行しながら東京湾に注ぐ小櫃川と養老川によって　南西側より木更津台地・袖ケ浦台地・市原台地に細分される．　小櫃川と養老川のまわりには河岸段丘と沖積低地がまとまって分布する．　東京湾が北西端に一部顔を出すが　湾岸には石油コンビナートの林立する埋立地が広がり　かつてののどかな漁業地帯は一大工業地へと変貌している．　内房線に近い北西側は首都通勤圏に組込まれ近年急速に宅地開発が進行しつつある．　一方　南東側を中心とする大部分の地域は　昔ながらの農村風景が残り人口増加の兆しも認められない．　ただゴルフ場だけは丘陵や台地の上に数多く造成され　都会の人たちの裏庭的な存在ともなっている．

分布する地層　本地域南東側の丘陵地域には上総層群と呼ばれる一連の海成層が分布する．　これらの上総層群には　下から　国本層の中部と上部・柿ノ木台層・長南層・笠森層・金剛地層の諸累層が含まれる．　一方北西側の下総台地には　下位より地蔵堂層・藪層・上泉層・清川層・横田層・木下層・姉崎層の7累層からなる下総層群が分布する．　このうち下位の6累層はいずれも下部が淡一汽水成の泥質層（礫・砂も含む）上部が貝化石を多産する浅海成の砂層からなる類似した堆積サイクルを示し　下総層群の堆積作用の基本的な特徴となっている．　またこれらの累層名の大部分は　古くからの貝化石産地に由来している．　最上位の淡水成層のみからなる姉崎層とその下位の木下層は　下位の層準と不整合で接するとともに　それらの堆積面はそれぞれ異なった地形面（姉崎面と木下面）を形成している．養老川や小櫃川の流域には　上総層群や下総層群を削って段丘堆積層や沖積層がかなりまとまって分布している．なお BRUNHES-MATUYAMA 古地磁気境界(約70万年前)は　上総層群国本層の中部の基底付近にあることから　本地域には中期更新世以降の地層が広く分布していることになる．

地層の構造　本地域に分布する地層は上総層群・下総層群を通して　東京湾岸に近づくほど上位の地層が分布するという形態を示す．　すなわち走向が北東-南西で北西に緩傾斜する一般構造で　下位の地層ほど傾斜が急であるが　それでも最大6度前後である．　この一般走向に斜交する形で西北西-東南東ないし東西方向に伸びた波曲構造（袖ケ浦波曲構造）が認められる．　小櫃川や養老川が河口近くで北流から西流へ向きを変えるのも　この波曲構造の形成によるものかもしれない．



地質ニュース　第361号　9月号
定価 ¥600　〒実費
昭和59年9月1日　発行
編集　工業技術院地質調査所
発行人　林　久雄
発行所　株式会社　実業公報社
〒102
東京都千代田区九段南4の2の12
Tel.　(03)265-0951(代表)
振替口座　東京1-32466
総発売元　株式会社　実業公報社
出版事業部

©1984 Geological Survey of Japan